

# 房総の文化財

— 第 3 号 —

平成 5 年 6 月 1 日

財団法人 千葉県文化財センター  
千葉県四街道市鹿渡809-2  
TEL 043-422-8811(代)  
FAX 043-422-8850



## よみがえる人物埴輪

写真の3体の埴輪は印旛村瀬戸の大木台2号墳で発見されたものです。すべて女性の埴輪で、髪を頭の上で策ね、イヤリングや丸玉のネックレスをつけ、スカートのような裳をつけています。裳の下の円筒部分は、土の中に埋められていました。これらの埴輪は、古墳の外側を向いて一列に巡らされていたようです。土で汚れ、細かくバラバラに割れていた埴輪の破片も水洗いをし、ジグソーパズル

のようにつなぎ合わせていくと、このように当時の姿がよみがえってきます。

このほかに、冠の形をした帽子を被って、腰に太刀を佩いた男性の埴輪や、鞍を装着した馬の埴輪なども見つかりました。これらは当時のファッションを教えてくれるとともに古墳という日本の歴史上もっとも巨大化したお墓で行われた吊いのようすを物語っているのかもしれない。(糸原 清)

# 効率的な文化財センター 運営を

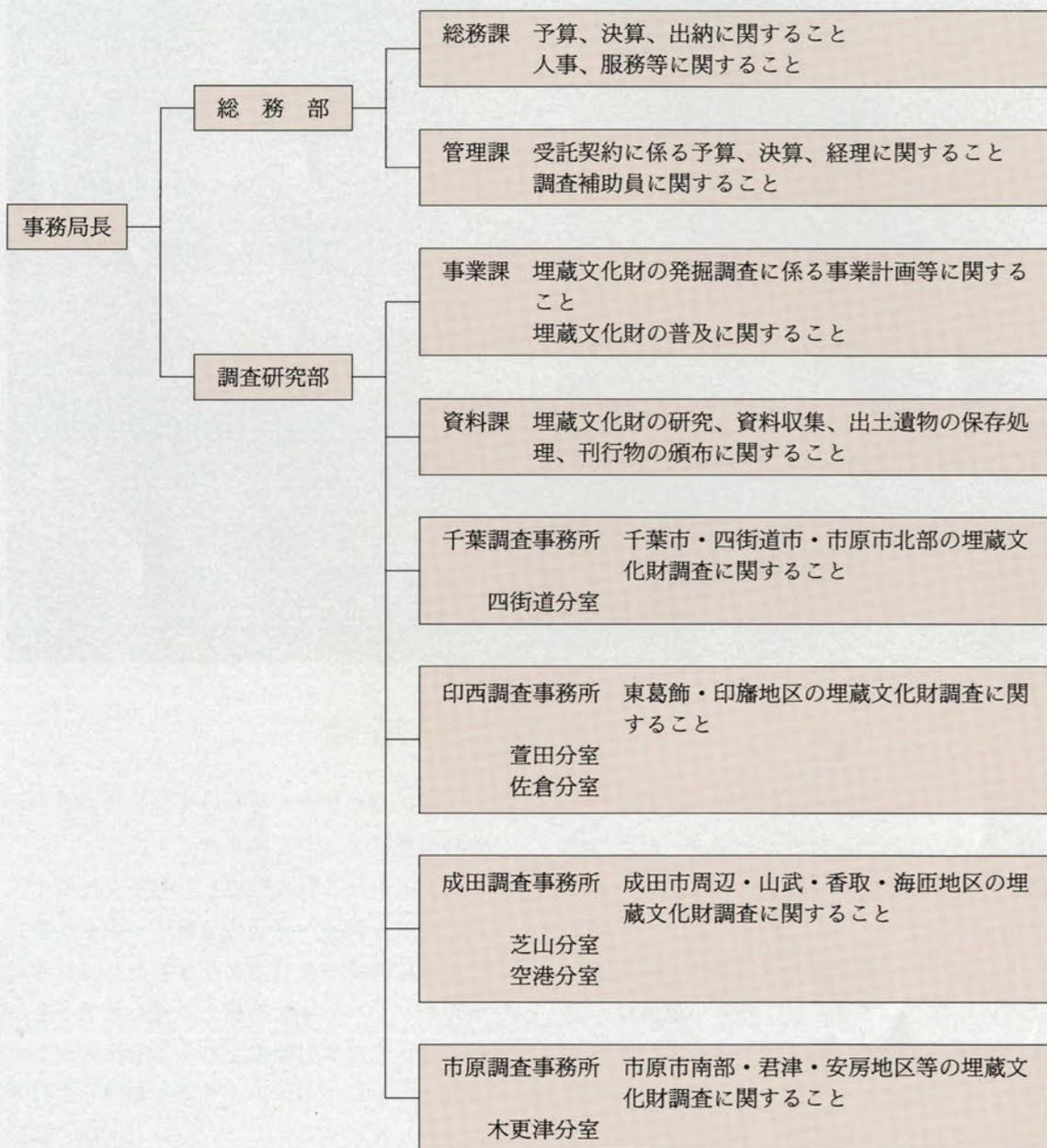
事務局組織の改正

当文化財センターの事業については創刊号で紹介しましたが、これらの事業をより効果的にすすめるため4月1日から事務局の組織を全面的に改編し、組織体制の整備充実をはかりました。

おもな改正点は、部制をひき総務部に総務

課（旧庶務課）と管理課（旧管理一・二課）が、調査研究部には事業課と資料課があります。

さらに県内を四つの地域に分け、それぞれ調査事務所を設置し、埋蔵文化財調査の円滑化をはかることとしました。



## ①千葉調査事務所

所在地 千葉市緑区おゆみ野1-35-1

(☎ 043-292-2407)

J R外房線鎌取駅東方の閑静な新興住宅街の一角にあります。職員17名の大所帯です。また本部と同じ建物のなかに、職員6名の四街道分室があります。当事務所は大規模な宅地開発事業に伴う調査が多いのが特徴です。おもな事業は、千葉市東南部地区（おゆみ野）、市原市千原台地区（ちはら台）、四街道市物井地区の調査です。

おもな遺跡には、縄文時代の千葉市有吉北貝塚、昨年現地説明会を開いた椎名崎古墳群、本号で紹介の草刈遺跡、奈良・平安時代の四街道市小屋ノ内遺跡があります。特におゆみ野・ちはら台には遺跡が集中しています。

## ③成田調査事務所

所在地 成田市十倉三丁目妙寺30-52

(☎ 0476-22-5106)

成田市街から佐原方面へ向かう国道51号線沿いの、東関東自動車道と交差する付近にあります。職員4名が勤務しています。分室は芝山分室など2か所で、職員10名が勤務しています。当事務所は道路の改良・建設に伴う調査が多いのが特徴です。おもな事業は東金道路二期工事に伴う調査です。

おもな遺跡には、馬形埴輪などを出土した芝山町山田宝馬古墳群、縄文時代早期の貝層が残されていた干潟町桜井平遺跡があります。また、調査例の少ない地域の遺跡として、古墳時代から奈良・平安時代にわたる山武町栗焼遺跡の調査が期待されます。

## ②印西調査事務所

所在地 印旛郡印西町大森字割野749

(☎ 0476-46-4319)

J R成田線木下駅から千葉ニュータウン中央方面へ向かう県道沿いにあります。職員7名が勤務しています。分室は萱田分室（八千代市）と佐倉分室があり、職員10名が勤務しています。当事務所では、千葉ニュータウンの開発に伴う調査のほか、東葉高速鉄道、佐倉第三工業団地や道路の改良・建設に伴う調査など、さまざまな事業を扱っています。

おもな遺跡には、本号で紹介の大木台2号墳・鳴神山遺跡のほか、県内で最も古い鍛冶場跡が見つかった古墳時代の八千代市沖塚遺跡や、旧石器時代から古墳時代の各時代ごとに注目される沼南町石揚遺跡があります。

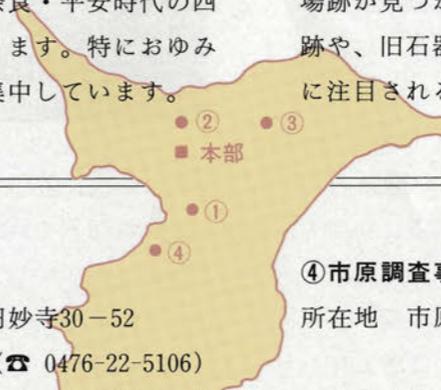
## ④市原調査事務所

所在地 市原市村上1,879

(☎ 0436-23-7929)

J R内房線五井駅の東南、養老川右岸沿いに所在します。職員7名が勤務しています。木更津に分室があり、こちらは職員4名です。当事務所のおもな事業は、東関東自動車道千葉・富津線と福増浄水場（市原市）の建設に伴う調査です。ほかに富山町の道路関係の事業など、安房地方での調査もしばしばあります。また低地の調査が多いのも特徴でしょう。

おもな遺跡には、本号で紹介の武士遺跡、弥生時代の水田跡が見つかった木更津市菅生遺跡と芝野遺跡、昨年現地説明会を開いた笹子城跡、古代の官道跡が発見された市原系里制遺跡があります。



## 発掘調査速報

### 文字が語る古代のムラ

印旛郡印西町の印旛沼にほど近い台地上に鳴神山遺跡があります。遺跡の周囲は千葉ニュータウンという広大な住宅地になっていますが、いまから1,200年前の昔もおおきなムラだったことが、これまでの調査で明らかになってきました。

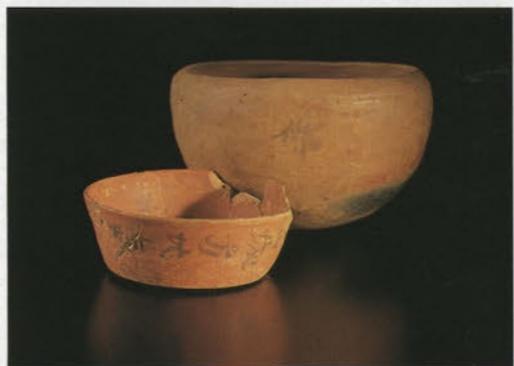
昭和63年からはじまったこの調査では、東京ドームの1.2倍の広さに200軒以上の住居跡が見つっています。ほとんどが奈良時代から平安時代の住居で、千葉ニュータウン周辺では、当時としては最大級のムラといえます。

鳴神山遺跡で注目されることは、土器に文字や記号を書いたものがたくさん見ついていることです。文字は墨で書いたり（墨書）先の尖った針のようなもので書いて（線刻）

います。

「佛」と書いたものもあり、仏教が一般に広まっていたこともわかります。また、神への祈りを込めた内容のものもあり、土器に願いを託していたのかもしれない。

土器に書かれたいろいろな文字から、当時の人々の暮らしぶりがさらに明らかになってくることでしょう。（郷堀 英司）



### 大昔もニュータウン？ 草刈遺跡

市原市にある草刈遺跡は、千葉市に隣接するちはら台ニュータウンの西端部に位置する大きな遺跡です。東京湾に向かって流れる村田川と、茂呂沢とよばれる沢地にはさまれた台地上に営まれたこのムラには、はるか旧石器時代の昔から人々が住みはじめたようです。

昔はいまとちがい海がすぐそばまでできて、縄文時代の貝塚も見つっています。

弥生時代にはいと、ムラの人口は急激に増加します。この地は沢や川に近く、このころはじまった米作りに適していたのでしょう。水の便がよいため、船を使った交流もさかんで、これまで見つかった多くの遺物のなかには、遠く西日本や東海方面からもたらされた土器やお祭の道具などめずらしいものが見られます。この時期を境に草刈地域では急に開発がすすみます。

古墳時代にはいと、台地の上はもとより北側の斜面まで造成し、たくさんの住居が作られるようになりました。いままでに調査された住居の数から、当時の人口を割り出してみると、草刈ムラの人口密度は非常に高かったようです。この辺りで現在すすめられているニュータウン開発は、歴史上2度目といえるかもしれませんね。（立和名 明美）



## 埋蔵文化財アラカルト

### シリーズ 住まいの移り変わり

#### 第3回 弥生時代

弥生時代の住まいも、縄文時代と同じく竪穴住居です。かたちは丸いもの、小判形のもの、隅が丸くなった角形のものときまじまでふつうは炉が一つつきます。また、地面からの掘り込みはだいたい50cmから1mといったところです。

ここまでは縄文時代とそれほど変わりませんが、弥生時代の場合、一つ大きな違いがあります。それは、柱の位置および本数がほぼ固定したことです。そして、それに応じて炉も住居の奥の柱と柱の真ん中に位置するようになりました。入口はふつう炉の反対側にあり、作りつけのはしごをおりてなかへ入るようになっています。

つまり、現代的な表現におきかえると、ドアを開けたときに目にする住まいのようすは、4本の柱に囲まれたせいぜい四畳半たらずの空間と、その正面の床に作られた炉を囲んだ家族の姿が見えてきます。なかは暗かったはずでどれだけはっきり見えたかわかりませんが、床は土のむきだしで、板などで覆った痕

跡は見あたりません。4本柱の内部、とりわけ炉の手前は固く踏みしめられていますのでその辺がおもな生活の場となっていたのでしょう。柱の外側つまり壁寄りの場所はその逆です。台所や居間といった明確な部屋の区別がなかった当時、そこには雑然とした住居空間が存在したことになります。

こんな住まいのあり方をみなさんはどう思うでしょうか。電気、ガス、水道はもちろん便利で衛生的な住居の環境になれきっている私たちが、それを貧しいとかなづけることは簡単です。しかし、夏は涼しく冬はわりあい暖かい茅葺き屋根や半地下式の構造、調理・暖房・採光の役を一つでこなす炉、身近な材木を使うなど、そこには古代人の経験にもとづいた住まいのノウハウがぎっしりつまっています。

弥生時代は日本の歴史上、一大変革期といえますが、その住まいにはそれほど大きな変化は見られません。これもその合理性の結果かもしれません。（小高 春雄）

まちがいさがし



弥生時代の生活のようす（絵 横山 仁）



（解答）中央にある住居がまちがっています。竪穴住居の場合、掘りくぼめたところが床だったと考えられていて、絵のように高い床の建物ではありません。（安井 健一）

## 弥生特集 こんなお墓があるんです

いまから約2,300年前、東日本にも稲作が伝わってきた弥生時代のはじめのころ、関東地方を中心におもしろいお墓が流行しました。それは「再葬墓」とよばれているもので、名前の由来はそのままこのお墓のようすを物語っています。つまり、再び・葬る・お墓ということです。それではこの「再び葬る」とは、どういうことなのでしょう。

わかりやすく説明すると「もう一度、埋める」ということです。ムラびとが死んでしまうと、その死体をまず地面に穴を掘って、埋めます。しばらくそのままにしておき、死体が腐って骨だけになったころ、この穴を掘り返します。そして、この骨をこんどは、壺や甕など土器の中に入れて、もう一度埋めなおすのです。

下の2枚の写真は、私たちが発掘調査した市原市の<sup>3</sup>武士遺跡で見つかった再葬墓です。

右の写真は、二つの再葬墓がとなりあって作られています。左側のお墓には2個の壺が重なり合うように埋めてありました。右側のお墓には大きな壺と小さな壺がならんで埋まっていた。

左の写真は、大きな壺が2個と、その手前にコップのような形をした小さな土器があります。

このように、再葬墓にはいくつかの土器と一緒に埋められていることが多く、おなじ家族の人々が、おなじお墓につきつぎと埋められていったものと考えられています。

大きな壺にはお父さんの骨が入っていたのでしょうか、小さな壺はお母さんでしょうか、寄り添うように並んでいる2個の壺は、兄弟の骨が入っていたのでしょうか、小さなコップ形の土器の骨は赤ちゃんでしょうか？

(加納 実)



### Q & A

#### 1. なんで弥生時代っていうんですか？

明治10年代、一人の少年が東京大学の付近で一個のもようのついた土器を見つけました。歴史好きのこの少年は、それがとおい古代の人々が使った土器であることを知りました。

このころ、すでに石器時代の土器として、

いまでいう縄文土器が知られていましたが、どこか違うなといういどでした。

坪井正五郎という学者がこれを研究して、のちにこの土器が発見された弥生町の地名にちなんで「弥生土器」とよび、時代を表す呼び方になりました。(花島 理典)

## こんなことを計画しています

### ——埋蔵文化財普及事業のご案内——

当文化財センターでは、ことしから事業課が窓口となっているいろいろなイベントを計画しています。みなさんに親しまれるように努力しますので、ぜひご参加ください。

#### (1) 現地説明会の開催

わたしたちがどんな仕事をしているかを、発掘調査の現場や整理作業をしている調査事務所をおして知っていただくものです。

千葉・印西・成田・市原の各調査事務所がそれぞれ担当して、7月から11月にかけて4回ほど予定しています。遺跡の紹介はもちろんのこと発掘の体験やクイズなどたのしい企画も用意しています。

#### (2) 出土遺物公開展の開催

平成5年11月26日(金曜日)から  
12月5日(日曜日)まで

最近の調査で発見された貴重な遺物や当文化財センターで保管している資料を一般公開します。ことしは千葉ニュータウン(印西町など)の発掘調査の成果のなかから選び、地元の施設をお借りして紹介します。2.5万年前の石器から、江戸時代の庶民信仰の塚までもりだくさんの内容を考えています。

#### (3) その他

また、小・中学校やいろいろな文化団体の遺跡見学会のお手伝いもいたします。事前にお近くの調査事務所にご連絡くだされば、申し込み方法や見学できる遺跡をご紹介します。ただし、交通の便がわるい所が多いので、ご注意ください。

このほかに、ビデオテープで当文化財センターの活動を紹介することも計画しています。

### 収蔵遺物の紹介

今回紹介する石器は、成田空港の敷地内の東峰御幸畑西遺跡(空港No.61遺跡)から見つかった千葉県で最も古い約25,000年前の旧石器時代のものです。

台形様石器(写真右上の六つ)は、石のかけらの両端を加工し切出しナイフの形にして、先端に鋭い刃を作りだしたものです。棒の先につけナウマンゾウなどを突き刺すのに使ったのでしょう。磨製石斧(写真左上の一つと左下の二つ)は、みがいて刃を作りだした石の斧です。木を切ったり、土を掘ったりするのに使われました。写真右下は、石器や石のかけらをくっつけたものです(接合資料)。石器を作るために割った石を順番にくっつけたもので、これによって当時の人たちがどのようにして石器を作ったかがわかります。

(新田浩三)



## ドキュメント “整理作業”

遺跡の調査は発掘作業だけでおわるわけではありません。遺物や住居など、遺跡で発見したものを報告するという仕事が残っています。ただしそのためには、情報を整理したり報告しやすいかたちにしなければなりません。これを行なう一連の作業が整理作業です。それでは作業についてご紹介しましょう。



注記

①水洗・注記 遺物の泥を洗い落とし、遺跡や遺構の番号を記入する。



復元

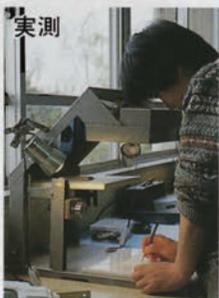
②接合・復元 土器などの破片でたがいに合うものをつけてもとのかたちに近づける。残りのよいものは石膏などで補強。



計測

③実測・計測・拓本 遺物を種類別や時代別に分類したあとで、必要なものを抜きだして図化する作業。

上はノギスを使って石器を計測しているところ。右はニシオグラフという機械



実測

で実測しているところ。実測は三角定規などを使って手で行うのがふつうですが、本格的



拓本

な図化用の機械を使うこともあります。さて、あるていどかたちのあるものは実測できますが、模様

のついた土器の破片などは拓本で表します。上は縄文土器の拓本をとっているところ。



トレース

④トレース 原図をもとにして報告書用の図に仕上げる。現場で作った図面（住居の平面図など）は、あらかじめ修正して必要な線だけをいれる。

遺物の実測図は、たんに原図の線をなぞるだけでなく表現力も要求される。



図面作成

⑤図面作成 トレースのおわった図を台紙に貼りこんで版下を作る。必要に応じてスクリーンなどを利用。写真についても版組みする。

⑥原稿執筆 図面などと合わせて報告書完成。

以上が整理作業の概要ですが、遺跡の種類や遺物の性質によって、それぞれに適した整理方法がとられています。（沖松 信隆）

### お知らせ

当文化財センターでは、発掘調査をお手伝いいただく調査補助員を募集しています。ご希望の方は最寄りの調査事務所にお問い合わせください。

また、広報紙や見学などに関するご質問、ご意見をお待ちしています。

### 編集後記

発掘現場の木々の緑もますます濃さをましてくれました。本格的な夏の到来とともに当文化財センターの発掘調査もいっそうすすんでまいります。本紙はこの号からオールカラーになりました。今後もさらに充実した紙面にしていきたいと思ひます。（沖松 信隆）